

成てかりとり、もみくだき糶を簸去て、箱か袋に入をきて、二月早く蒔べし。是先つねに定りたる蒔時分なれども、冬より地ごしらへし置て、正月早くまきたるは、夏早根に入ゆへ、菜の絶間に出來てめづらし、されども早過たるは、間に木牛蒡に成て、味も思はしからぬ事もあれば、二三月蒔て、虫のいまだ地に生せぬさきに、生長する心得するも、一つの手立なり、寒氣の和らかなる所は、冬より蒔もよし、總じて牛蒡はいつ蒔ても、少々根の入ぬ事はなきものなり。○中略又牛蒡大根麻などは、いや地を嫌はず、却て舊地をよしとす、毎年同じ所にうゆべし、同じく種子を取をく事、八幡牛蒡のたね、其外よきたねを求て作るべし、よきたねは、内に筋もなく、牙もろくにほひあり、味甘く和らかなり、又去年の古たねよし、當年の實は蒔ても生せず、たとひ生じても、こほくして料理にならず、たねにする物、冬掘取て、大根のごとくうへをきたるもよし、其ま、うへ付置たるもくるしからず、

〔北方未來考〕牛房には尺廻りの物、山にあるよしなれば、○殿是は土地合て大く成のみならず、塞國故實を結ぶ事不相成、年々にもちこし候故、自ら根は太く相成事と思はる、也、

牛蒡利用

〔藥經太素〕下惡實 平味甘 鼠粘子トモ云

補中明目、療風纏腫瘡、解毒、除消渴、手足筋攣、可未根、

〔宜禁本草〕乾牛蒡根 辛甘平無毒、蒸肺食、嫩葉爲茹、主牙疼、勞瘧、脚弱、風毒、癰疽、咳嗽、傷肺、疝瘕、積

血、治面目煩悶、四肢不健、通十二經脈、洗五藏惡氣、常作菜食之、莖葉煮汁、夏月浴去皮間習々如虫行、風洗了慎風少時、逐水久服、輕身耐老、惡實一名大力子、未去萼謂之鼠粘、辛平、明目、補中、除風、傷治

疱瘡將出已出、

〔庭訓往來〕菜者織羅、菘、煮染牛房、

〔執政所抄〕上正月十五日